

1市の概要（H30年度）

人口	800,112人
保護率	1.49%

2支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当 (件) 一月当たり	9.1
プラン作成件数人口10万人当(件) 一月当たり	6.3
就労支援対象者数人口10万人当 (件) 一月当たり	2.1
就労・増収率(%)	42.6

3実施方法について

実施方法	委託（単年度契約・プロポーザル有）
事業費	21,714千円（困窮：10,857千円、被保護：10,857千円）
理由（委託）	<p>○ホームレス等貧困・困窮者の「絆」再生事業を実施するなど、生活困窮者の社会復帰に向けた支援実績があることや、他制度における若者の居場所支援、就労トレーニングに関する事業実績があることから、それらのノウハウを活かした支援が期待できる。</p> <p>○対象者が類似する被保護者就労準備支援事業と一体的に委託することで効率的な事業実施ができる。</p>
事業概要	<p>○4団体（入所型2、通所型2）へ委託。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所型については、法人が運営する施設に入所しながら身だしなみや食生活の改善等の日常生活自立を目指すとともに、調理実習やボランティアなどの活動により社会参加のきっかけづくりを行う。（入所期限はなし。） ・通所型については、居場所としての役割を担いつつ、地域の行事への参加や農業体験を通じた社会参加プログラム、ビジネスマナーセミナー、ジョブトレ等の就労に向けたプログラムを取り入れ、就労に向けた基礎的な能力の習得を目指す。 <p>【H30利用者内訳】入所型：15人 通所型：35人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所型利用者は元ホームレスの方や刑務所出所者、更生保護施設退所者が多く、全員が生活保護を受給。

4事業実績（H30年度）

利用者	事業継続 利用中	就職活動 開始者	うち 就職者
生活困窮10人 生活保護40人	生活困窮5人 生活保護16人	生活保護 7人	生活保護 4人

5事業実施のポイント

～徹底的にコミュニケーションの場づくりを行い、自信の回復を目指す～



- 利用者は「コミュニケーションが苦手。」「自分に自信がない。」と口にする方が多いため、居場所や調理実習、様々なイベントを通して『**自然とコミュニケーションが生まれる場**』の提供を目指して事業を実施。
- 他者との会話（話す、聴く）や協働作業によって自己肯定感を高めるように努めながら、就労へ向けた自信の回復と社会生活の自立を促す。日常生活自立においては、課題の整理を行い、スモールステップで日常生活の改善と形成につなげる。

6取り組んで良かったこと

- 利用者の14%が一般就労に向けた準備が整ったと判断され、ハローワークでの就職活動を開始した。
- 就労に至らない場合でも、利用者同士の交流を通し、堂々と挨拶ができるようになるなど、利用者の自信の習得・回復に貢献している。
- 事業への参加を通して、物事を継続する大切さなどを学ぶ機会にもなっている。
- ひきこもりの支援との互換性が高く、有効な支援手段の場となっている。